

「数値地図 5 mメッシュ（標高）ビューワ」 簡易型表示ソフトウェア Ver. 5.09 説明書

機能一覧			
ファイル		プロジェクトを新規作成	新規に標高メッシュ構成(プロジェクト)を作成します
		プロジェクトを開く	すでに作成されているプロジェクトファイルを読み込みます
		プロジェクトの変更	プロジェクトの構成、段彩色の変更などを行います
		印刷	印刷を実行します
		表示画面をクリップボードにコピー	現在の表示画面をクリップボードにコピーします
		上書き保存	現在のプロジェクトをファイルに保存します
		名前を付けて保存	現在のプロジェクトを別ファイルに保存します
		最近使ったファイル	最近使ったファイルから開きます
		アプリケーションの終了	プログラムを終了します
設定		カラーマップの設定	段彩色(カラーグラデーション)の変更などを行います
表示		全領域	画面表示をデータ全域にします
		ズームイン	画面表示を拡大します
		ズームアウト	画面表示を縮小します
		移動	画面表示領域を移動します
		再描画	画面の再描画を行います
		クイック座標表示	マウスの現在位置の座標と高さを表示します
		スクロールパッド	スクロールパッドの表示・非表示を切り替えます
		スケールバー	スケールバーの表示・非表示を切り替えます
		図郭情報の表示	図郭情報の表示・非表示を切り替えます
		ツールバー	ツールバーの表示・非表示を切り替えます
		ステータスバー	ステータスバーの表示・非表示を切り替えます
図上計測		距離と面積	図上で任意位置を指定して、距離と面積を求めます
		距離と勾配	図上で任意位置を指定して、距離と勾配を求めます
		軌跡のクリア	図上計測での軌跡をクリアします
		計測のプロパティ	図上計測時のプロパティを設定します
		断面図	図上で任意位置を指定して、その断面図を作成します
ヘルプ		このビューワの使い方	このビューワの使い方
		このプログラムの情報	このプログラムの情報

2009.10

LemView5

プロジェクトを新規に作成する	3
カラーマップの利用	4
表示メニューの実行	5
位置とその場所での高さ及び図郭情報	6
距離と面積	6
距離と勾配	7
計測結果の表示方法	7
断面図の作成	8
図郭情報の表示切替	8
プロジェクトの保存	9
このプログラムの情報	9
データ構成上の留意点	9
動作環境	10
お問い合わせ	10

プロジェクトを新規に作成する

プロジェクトを新規作成から、データを読み込んでプロジェクトを構成します。

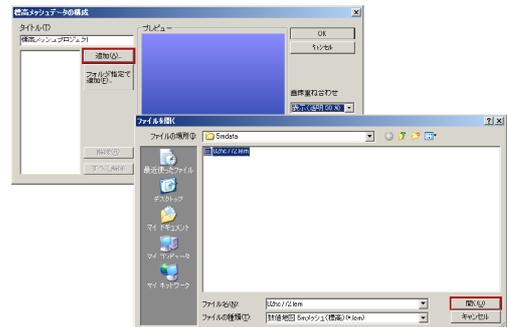
操作方法

1. [ファイル]-[プロジェクトを新規作成]を選択すると、[標高メッシュデータの構成] ダイアログボックスが表示されます。また、Lem View5 ウィンドウを何も開いていない状態でクリックしても、同様の処理を行います。

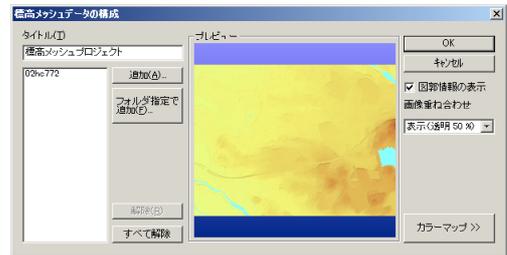
[ファイル]-[プロジェクトを新規作成] = 



2. <追加> ボタンを押すと[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されますので、データの入っているフォルダを指定して、読み込む標高メッシュファイル(拡張子 Lem)を指定し<開く> ボタンを押します。また[ファイルを開く] ダイアログボックスで、「ファイルの種類」をイメージデータに設定すると、ワールドファイル付のイメージデータ(JPG)を読み込みます。



3. 指定したデータが[標高メッシュデータの構成] ダイアログボックスのプレビュー欄に表示されます。<フォルダ指定で追加> ボタンで、データのあるフォルダを指定して、そこにある全ての標高メッシュデータファイルを追加することもできます。イメージを重ね合わせた場合、「画像重ね合わせ」で透過率を指定できます。



カラーマップの利用

＜カラーマップ＞ボタンを押して、段彩表現に関する色と高さの関係、「ステップ段彩」の設定などを行います。

操作方法

1. [標高メッシュデータの構成] ダイアログボックスの＜カラーマップ＞ボタンを押すと、[カラーマップ設定] ダイアログボックスが表示されます。



2. ＜データ標高値で最適化＞ボタンを押すと、現在のデータの最大、最小の標高値でグラデーション範囲を指定します。

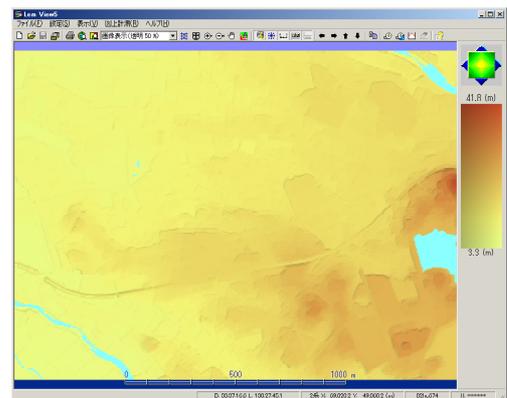


ここで、＜グラデーション＞ドロップダウンリストから、＜ステップ段彩＞や、＜ステップ段彩影つき＞を選択することにより、指定の標高単位で離散的に色塗りや、浮き出し表現をすることもできます。



3. 設定が終わりましたら、＜OK＞ボタンを押して、[カラーマップ設定] ダイアログボックスを閉じ、さらに、[標高メッシュデータの構成] ダイアログボックスも、＜OK＞ボタンで閉じます。

4. 設定のとおり標高メッシュプロジェクトが作成され、ウィンドウ上に表示されます。



プロジェクト作成後、[標高メッシュデータの構成] ダイアログボックスは[ファイル]-[プロジェクトの変更] ( ボタン)、[カラーマップ設定]は、[設定]-[カラーマップの設定] (=  ボタン) で呼び出せます。

表示メニューの実行

ここでは、拡大、縮小を実行してみましょう。

拡大操作方法

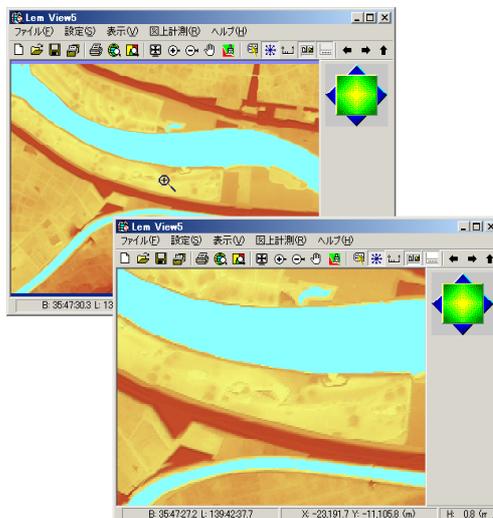
- 1.[表示]-[ズームイン]を選択すると、ズームインアイコンが表示されます。(=  ボタン)

マウスの中ボタン、もしくは、Ctrl キーを押しながらマウスの左ボタンでも拡大モードになります。

中央任意拡大モード

指定した一点を中心として適当に拡大します。

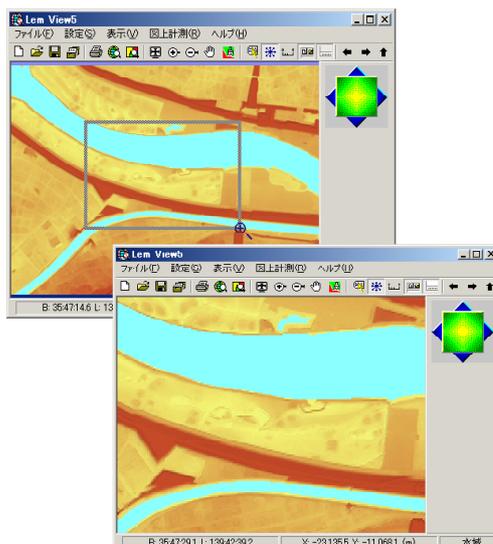
- ① 拡大したい中心位置にカーソルを動かします。
- ② マウスの左ボタンをクリックします。この時点で指定した点を中心として適当な範囲が拡大されます。



範囲指定モード

拡大する範囲をユーザーが指定して実行します。

- ① 拡大したい範囲の四隅点位置にカーソルを動かします。
- ② マウスの左ボタンを押すと拡大フレームが表示されますので、ボタンを押したままマウスを動かし（ドラッグ）ます。この時どの方向にも動かすことができます。
- ③ 拡大したい領域が決まったら、マウスの左ボタンを離します。この時点で指定範囲の領域を拡大表示します。

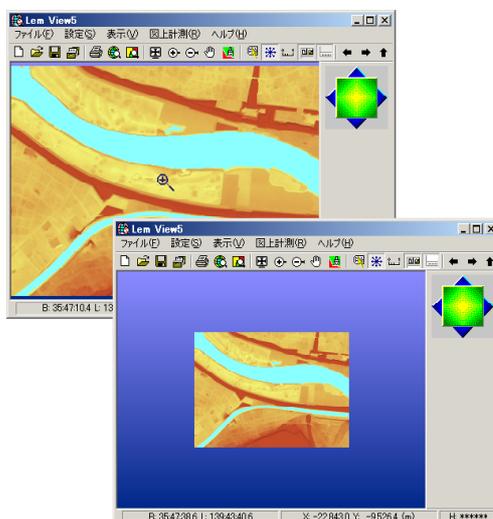


縮小操作方法

- 1.[表示]-[ズームアウト]を選択すると、ズームアウトアイコンが表示されます。(=  ボタン)

Ctrl キーを押しながらマウスの右ボタンでも縮小モードになります。

2. 縮小中心位置に移動し、マウスの左ボタンを押します。押した位置を中心に適当な範囲に縮小されます。



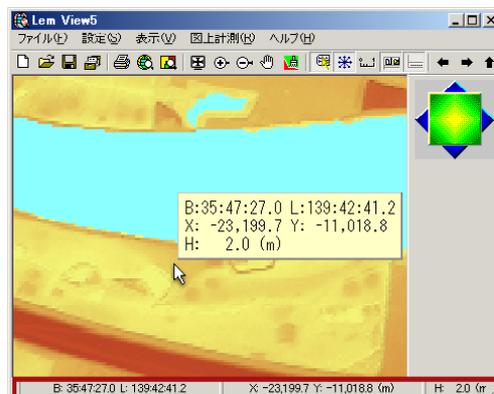
位置とその場所での高さ及び図郭情報

「クイック座標表示」機能で、図上でマウスの動きを止めると、その位置でのXY座標と高さの情報が表示されます。

操作方法

1. [表示]-[クイック座標表示]を実行します。
(=  ボタン)
2. 座標を知りたい位置にポインタを動かして静止すると、クイック座標表示が実行されます。

また、クイック座標表示を行わなくても、ステータスバーには常にマウスの位置のXY座標が表示されています(右図赤枠部分)。

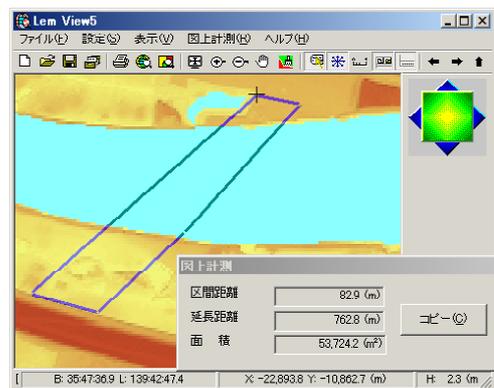


距離と面積

図上で距離と面積を求めます。

操作方法

1. [図上計測]-[距離と面積]を実行します。
(=  ボタン)
2. [図上計測]ダイアログボックスが表示され、マウスが十字カーソルになり、図上計測モードに入ったことが分かります。
3. 計測地点を順にクリックしていくと、計測ラバーバンドが表示され該当領域の情報が[図上計測]ダイアログボックスにリアルタイムで表示されます。



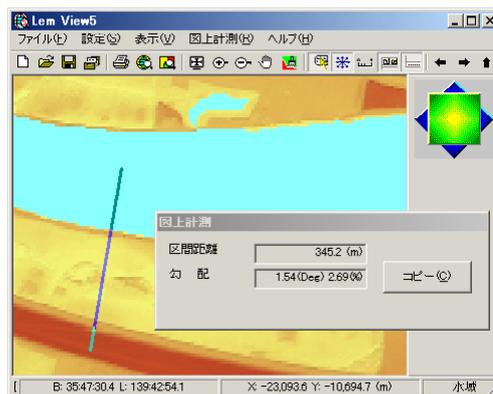
4. 計測を終了する場所でマウスの右ボタンを押すか、**Esc** キーを押すと計測タスクが終了します。
5. このコマンドモード自体を終了する場合は、もう一度マウスの右ボタンを押してください。

距離と勾配

図上で距離と勾配を求めます。

操作方法

1. [図上計測]-[距離と勾配]を実行します。
(=  ボタン)
2. [図上計測]ダイアログボックスが表示され、マウスが十字カーソルになり、図上計測モードに入ったことが分かります。
3. 計測を始めたい位置にマウスを動かし、左ボタンを押します。開始点が確定し、計測用のラバーバンドが表示され、計測タスクが始まります。
4. この時、ツールチップには、区間距離(m)、角度(Deg)、勾配率(%)が表示されます。
5. 計測したい2点を指定します。
6. 計測を終わりたい箇所でマウスの右ボタンを押すか、Escキーを押すと計測タスクが終わります。
この時[図上計測]ウィンドウに計測点結果が表示されます。
7. タスクが終わってもコマンドモードは継続しています。次の計測を行いたい場合は2.からの操作を繰り返します。
8. このコマンドモード自体を終了する場合は、もう一度マウスの右ボタンを押してください。



計測結果の表示方法

計測結果はマウスの動きに合わせて、専用のウィンドウに表示したり、マウスの場所付近に「吹き出し」で表示することができます。

操作方法

1. [図上計測]-[計測のプロパティ]を実行します。
2. [図上計測のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
専用ウィンドウ表示・・・[図上計測]ダイアログに計測結果を表示します。
ツールチップ表示・・・「吹き出し」で計測結果を表示します。
3. 設定が終わりましたら < OK > ボタンでこのダイアログボックスを閉じると、設定した方法で計測結果が表示されます。

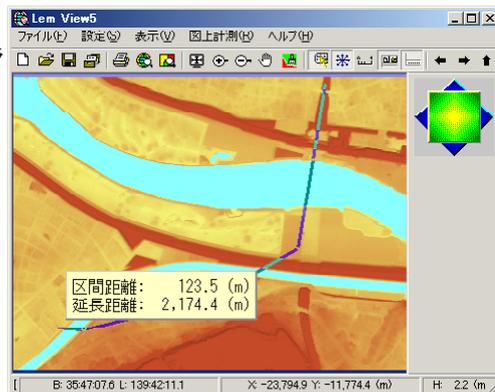


断面図の作成

作成したプロジェクトを使って断面図を作成できます。

操作方法

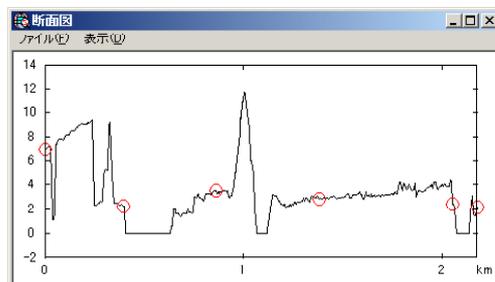
1. [図上計測]-[断面図]を実行します。
(=  ボタン)
2. マウスポインタが十字になり、断面線設定画面に入ったことがわかります。
3. 断面作成開始位置にマウスカーソルを動かし、左ボタンをクリックします。開始点が確定し、設定用のラバーバンドが表示されます。マウスにツールチップが表示され、そこにスナップした距離などが表示されます。
4. 設定線に屈曲点を設けたい場合は、マウスの左ボタンをクリックします。



5. 断面作成終了点でマウスの左ボタンをクリックした後、右ボタンをクリックします。

6. 「断面図」ウィンドウが生成されます。

作成された断面図はメタファイルに保存して利用できます。メタファイルはベクタデータの種類ですので、拡大縮小が容易です。



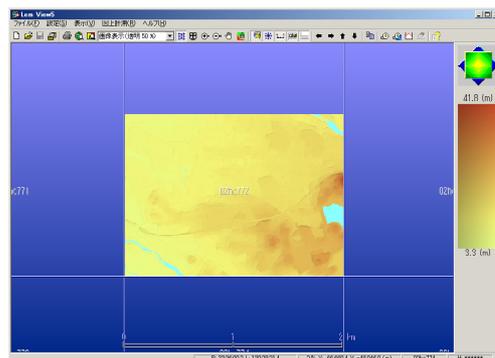
7. 断面図の軌跡を消したい場合は[図上計測]-[軌跡のクリアー]を実行してください。

図郭情報の表示切替

作成したプロジェクトとその周囲の図郭情報の切替を行えます。

操作方法

1. [表示]-[図郭情報の表示]を実行します。
(=  ボタン)
2. 図郭線や図郭番号が表示されます。デフォルト状態で表示がONになっています。元から表示されている場合にこのメニューを実行すると、図郭情報は非表示になります。

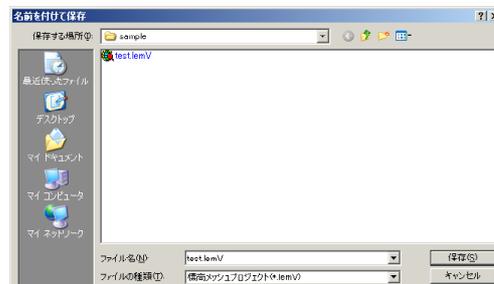


プロジェクトの保存

プロジェクトをファイルに保存して、次回以降も利用できます。

操作方法

1. [ファイル]-[名前を付けて保存]を実行します。
(=  ボタン)
2. [名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。
3. ファイル名を指定を行い、<保存>ボタンを押すと処理を行いません。



プロジェクトファイルは、拡張子 **LemV** のファイルとして保存されます。なお、プロジェクトファイルには、標高メッシュデータファイルのパス名が格納されますが、標高メッシュデータそのものは含まれません。したがって、プロジェクトファイルに保存した後、もとの標高メッシュデータファイルを削除したり、移動させたりした場合は、そのプロジェクトファイルを有効に読み出すことができなくなります。

このプログラムの情報

バージョン情報などが表示されます。

操作方法

1. [ヘルプ]-[このプログラムの情報]を実行します。
2. [LemView5 の情報]ダイアログボックスが表示されます。
3. 情報を確認したら <OK> ボタンを押してダイアログを閉じます。



データ構成上の留意点

数値地図 5m メッシュ (標高) のデータのフォルダ構成は、

Data フォルダの下にテキストファイル (拡張子は「lem」) のデータがあり、Data フォルダと同じレベルに Header フォルダがあり、その下にヘッダファイル (拡張子は「csv」) があります。

ビューワでは、このテキストファイルを指定しますが、データの読み取り、構成にはヘッダファイルも必要です。ビューワは、テキストファイルの1つ上のフォルダに Header フォルダを探し、その下に、同一ファイルタイトルで、拡張子が「csv」のヘッダファイルを探します。これが見つからないと、そのデータを読み出すことができません。

動作環境

OS Windows XP、2000、Vista

CPU PentiumⅢ以上

メモリ 128MB以上（256MB以上推奨）

ディスプレイ解像度 1024*768ドット、16ビットカラー以上

（1024*768ドット、24ビットカラー以上推奨）

お問い合わせ

お問い合わせについては、下記までお願いいたします。

国土地理院地理調査部社会地理課三次元地理情報係

（直通）TEL 029-864-6591

メールアドレス laser@gsi.go.jp

URL http://www1.gsi.go.jp/geowww/Laser_HP/index.html